

市長の施政方針に対する代表質問

3月定例会では、市長が平成25年度予算どのような事業を行うかという施政方針を説明し、それに対し各派の代表が質問を行いました。

※質問時間は、10分+会派人数×5分です。

平成25年度施政方針並びに予算(案)の大綱とごみ処理施設について

鴻創会(55分)

問 平成24年度の鴻巣市の一般会計予算は過去に例を見ない大型予算を計上されました。それは、鴻巣市が平成17年10月1日に合併をし、合併の基本方針である新市建設計画を着実に原口市長が実行しているため、平成24年度から26年度に事業が集中しているものと考えます。そこで本市の平成25年度一般会計予算の特徴について伺います。

答 平成25年度一般会計の総額は、平成24年度と比較しますと6億4400万円減の予算規模となる3億6700万円減となりましたが、2年連続の大型予算となりました。これは、合併時に計画した合併特例事業が平成24年度から平成26年度にかけて集中しており、合併特例債を最大限活用することによるものです。「メニューリスト」によるまちづくり、「メニュー

「合併特例債によるまちづくり」、「後期基本計画によるまちづくり」の3つのまちづくりを市政運営の基本とし、「花かおり 緑あふれ 人輝くまち こうのす」の実現を目指してまいります。3つのキーワード「健康体力づくり」、「市民活動」、「映画館」事業とし、すこやか運動応援室の設置、市民活動の拠点である市民活動センターの活用促進、市民みんなの映画館を目指した映画館のオープンを実現させ、市民の皆さんと一緒に魅力あるまち「こうのす」を創り上げるための全力を尽くしてまいります。

問 鴻巣市のごみ処理施設は鴻巣地域、川里地域のごみは埼玉中部環境保全組合、吹上地域のごみは彩北広域清掃組合で処理されております。1市2町で平成17年に合併したため、地域のごみの処理場が違うのは致し方ありませんが、問題は両処理施設とも耐用年数に問題があり、今後の処理施設の計画が大事であります。埼玉中部環境保全組合の管理者

である吉見町は、比企郡を含めた10市町村での建設計画を打ちだしましたが、鴻巣市は、行田市・北本市と共にごみ処理施設を建設する方向で動き出したと聞いておりますが、枠組みと候補地・推進体制・整備スケジュールについて伺います。

答 本年1月10日に行田市市長、北本市長に呼びかけをし、3市長による、ごみ処理広域化推進会議を開催しました。内容は、枠組みは鴻巣市、行田市、北本市の3市で進めていきたいことなどです。2月12日に会議を開催し、枠組みは、鴻巣市、行田市、北本市の3市を核とすることで合意し、建設場所については、再度、協議することになりました。今後の推進体制については、3市による協議が必要ですので、建設場所の協議が整ってから、今後のスケジュール等を含めて協議してまいります。その後、広域化のための「協議会」を設立するための準備として、協議会の法的な位置づけや運営方法等を協議します。今後、勉強会、首長会議で協議を進めます。

安全・安心・健康をどう守るか
効率的な行財政運営の推進

公明党(25分)

問 老朽化したインフラの長寿命化・

予防保全型維持管理は。

答 橋長10m以上の主要橋梁を対象に事後的対応から、予防的対応に転換する長寿命化修繕計画を策定し具体策を検討しました。下忍ポンプ場長寿命化計画を策定し26年度から工事を行います。水道事業の災害対策として老朽管更新による排水管路耐震化・浄水場施設の耐震化の為改築・耐震補強を行ってまいります。

問 「すこやか運動応援室」とは。

答 地域全体の健康づくりを目的として、地域の活性化につながるよう健康運動士を中心に保健師・栄養士と連携し、運動・健康・食の推進を一体的に展開してまいります。

問 「鴻巣版子ども・子育て会議」の設置について伺う。

答 既存の「次世代育成推進対策協議会」を「鴻巣版子ども・子育て会議」とし、子ども・子育て支援事業計画を策定してまいります。

問 「まちづくりパートナー」事業にかける市長の考えを伺う。

答 まちづくりの根幹をなす総合振興計画策定や重要な政策課題について専門的な知見を持つ有識者から助言・指導を頂き、より効率の高い施策の立案・実行に結び付け、市政推進に成果を出してまいります。

マニフェスト未着手事業の対応は
減債基金の積み立て状況と計画は
かいたい(25分)

問 前回選挙時のマニフェストで唯一未着手である、中学校武道場整備事業(吹上中・吹上北中・川里中)は、早急な整備が必要と考えるが。

答 市内8中学校のうち、指摘された3校については武道場が整備されていませんが、吹上中・川里中の剣道の授業では、武道具が整備済みであり、吹上北中の柔道の授業においても体育館に畳を敷いて対応しており、現在のところ武道の授業を体育館で行うことで支障がないことから、当分の間整備する予定はありません。

問 合併特例債を限度額の約327億6000万円まで活用する計画だが、市債償還のための減債基金の積み立ては年2億円で十分なのか。

答 本市の平成24年度末の減債基金残高見込額は約4億392万円となり、平成23年度県内平均額と同程度の残高です。合併特例債の元利償還金の30%は自主財源で負担しなければならぬことから、平成27年度末には10億円以上の残高を確保し、平成28年度以降も財政状況や財政調整基金の残高などを勘案しながら、更なる積み増しを検討し普通交付税の

合併算定替による加算がなくなる平成33年度以降の後年度負担に備えるようにします。

ごみ処理の広域化に向け
推進事業の構想策定を
鴻巣フロンティア(20分)

問 市長は、本市の重要施設である「ごみ処理広域化推進事業」について

鴻巣市、行田市、北本市の3市の枠組みで広域化を進める方針ですが、関係市との協議に臨むにあたり、施設建設地の自治体名、建設規模等本市の構想策定方針をおたずねします。また、この事業は、多額の予算を要することから、建設基金の新設が必要と思いますが、どうお考えか。

答 本市から行田市、北本市に呼びかけ会議を開催、本市から広域化は3市で進めたいこと、建設場所は鴻巣市という内容を提案、協議の結果広域化は3市を核として進めることと合意、建設場所は、再度協議をすることになりました。施設建設規模は、試算では3市で1日当たり、約260トンのごみを処理できる規模の施設を見込んでいます。この事業の構想策定に向けては、今後、構成団体と十分協議して進めることが肝要と考えています。事業費は、基金の設置を含め関係市等と協議します。

荒川左岸通線の北側の事業・健康つくりの推進・児童と子育て支援の充実
みどりの会(20分)

問 荒川左岸通線の北側部分の事業は。

答 荒川左岸通線北側の緑町と宮前境原道鎌塚鴻巣線までの北側への延伸計画は平成17年に完了してから、この道路の影響で雨水冠水被害が起ころっており、現在この対応に取り組んでおります。

これにより延伸計画を慎重に判断し、今後の整備について計画的な進捗が図れるよう取り組んでいきます。

問 健康づくりの推進について。

答 4月より「すこやか運動応援室」を設置し、体操教室・ウォーキング教室などの事業と運動遊具の維持管理、ウォーキングコースの設定等に係る事業を実施していく予定です。

問 児童と子育て支援の充実は。

答 延長保育・放課後児童健全育成・乳児家庭全戸訪問・地域子育て支援拠点整備・一時預かり事業は既に実施し、病児保育事業の実施は新年度において実施の方向で準備を進めています。一自治体として十分な責任を果していきます。

新ごみ処理施設完成の時期は
本市建設業協会との災害協定締結は
「コスモスクラブ」(20分)

問 2月20日付埼玉新聞によると中部環境保全組合の管理者である吉見町長は、鴻巣・北本・行田を除く8市町村で連携して7年以内に新しい施設を造りたい、また、現在行われている中部環境でのごみ処理は新施設が完成するまでとしています。そうなるかと本市及び北本市のごみの行く末は、本市・北本市・行田市の新ごみ処理施設完成の時期にかかっていると思いが見解は。

答 明確な完成時期は、差し控えますが、3市のごみ処理に支障を来たさぬよう努力していきます。

問 災害は必ずやって来る！本市建設業協会の中には、本市に対して不満を漏らす方も数多く居ます。しかし彼等の力無くしては応急災害対策は不可能と考えます。本市も配慮すべきは配慮して一刻も早く当該協会と災害協定を締結すべきと思いが。

答 鴻巣市建設業協会との協力的体制は重要であり検討・調整を重ね協定締結に向けて取り組んでいきます。